

令和7年度第2回地方独立行政法人名護市行政事務機構評価委員会
議 事 録

日時：令和7年11月10日（月）15:00～16:50

場所：名護市役所庁議室

	出席委員等	欠席委員等
委員	嘉手苺 健（委員長） 宮城 弘子（副委員長） 大城 美樹雄 与那国 かおり 比嘉 幹和	
事務局	比嘉 史（市民課長）	
関係者	比嘉 恒治（法人理事長） 高良 美夏（法人事務局長） 須藤 望（法人事務局次長） 山入端 章子（法人事務局主事）	

1 次第

(1) 議事

- ① 地方独立行政法人名護市行政事務機構令和8年度年度目標（案）について
- ② 地方独立行政法人名護市行政事務機構年度評価実施要領について

(2) その他

2 議事要旨

(1) 議事

- ① 地方独立行政法人名護市行政事務機構令和8年度年度目標（案）について
（※事務局より資料説明）

（委員） 第3の3について、「改善が推進される組織風土の醸成」とあるが、上司の決意が必要であると思う。どういう意図で記載したのか。

（事務局） サービスの向上や計画達成を継続するには、たゆまぬ改善が行われる組織風土が必要であると考えたためである。委員ご指摘のとおり、改善が行われるためには、旗振り役となる者のリーダーシップも必要であり、改善活動をとおして法人職員にリーダーシップが培われることも期待している。

（委員長） 上司の気持ちや覚悟が大切であることもわかるが、職員一人一人が意識を持って取り組む姿勢も期待していることも入っているか。

（事務局） 上司のリーダーシップのみではなく、職員一人一人が改善の意識を持つことも非常に大事なことなので、それも期待している。

- (委員) そのような組織風土が形成されることを期待したい。
- (委員) 評価委員会、市の立ち位置について再度、確認したい。
- (事務局) 年度目標は、議会の議決を経て決定されるものであり、まず市が年度目標案を作成し、その案に対して評価委員会の意見を聴取した後、議会に上程するものである。
- (委員) 「フロントヤードづくり」を新たに取り入れているが、現状の受付から交付までの状況で、カウンターや待ちスペースのイスの数など間に合っているのか。
- (事務局) 来庁者が集中すると足りないこともあるため増やしたいところだが、庁舎が狭いという物理的な制約があって増やすこともできないこともあって、現状では工夫で乗り切るしかないと考えている。
- (委員) 来庁させない方策について、記載していることを期待していた。
- (事務局) コンビニ交付を体験させてコンビニ交付にシフトさせることを目的に、庁舎内にコンビニ交付と同じ交付機を設置することを検討している。
- (委員) それはいい考えだと思う。ぜひ実現させてほしい。
- (委員) 第5の1はどのようなことを指しているのか。運用マニュアルを作成した方が良いのではないか。例えば「公開するのは統計的・数量的なものを公表し、個人特定されないもの」等明記したほうが良い。
- (事務局) 第5の1で情報公開することとしているものは、地方独立行政法人法で公開が求められているもの、例えば法人の計画や各種規程などである。個人情報については、厳格な取扱いを求めている。実際に、法人独自で情報セキュリティに関する監査を行っている。
- (委員) 第6の中長期的な観点から参考となるべき事項は、どのように評価するのか。期間をどのように捉えるのか。
- (事務局) 委員ご指摘のとおり、第6に掲げている項目については、年度単位で評価できない場合もある。法人の業績に対する評価は、年度ごとに行われる評価と、4年をめどに総括して行われる評価の2種類があり、第6に係る項目については、4年をめどに総括して行われる評価の際に評価を行いたい。
- (委員) 第6の1の見出し「DXを意識した業務改善」について、「DXを意識した」だけでは改善できない。DXは近年のトレンドでもあるので、もっと踏み込んだ書きぶりにはどうか。「意識」を「活用」へ変更するとか。
- (委員) DXは推進してもらいたい。
- (事務局) 「DXを活用した業務改善」に修正する。
- (委員) 災害対策は具体的なものがあるのか。
- (事務局) 実際に災害等が発生した場合、市が策定した業務継続計画に従っ

て動くこととしている。

(法人) 市が行う訓練にも参加している。

(委員長) 令和8年度の年度目標に関しては、第6の1の見出し「DXを意識した業務改善」を「DXを活用した業務改善」に修正の上、案のとおり承認し、これを評価委員会の意見としてよいか。

(※全会一致で承認)

② 地方独立行政法人名護市行政事務機構年度評価実施要領について

(※事務局より資料説明)

(委員) 評価基準についてであるが、「計画を達成した」のであれば「Ⅲ」で良いのでは。厳しすぎるのではないか。

(※他の委員より同様の発言あり。)

(事務局) 前回の会議で、真ん中の評価を設けずに頑張りを促すという意見があったので、それを踏まえたものである。他の4段階評価の事例と参考にして案を作成したが、ここまで厳しいものではなかった。事務局としても厳しいという印象だが、たたき台ということで敢えてこのようなものとした。忌憚のないご意見をいただきたい。

(委員) もっとシンプルにしてもいいのではないか。

Ⅳ：計画を上回った

Ⅲ：計画どおり

Ⅱ：一部計画どおりではなかった

Ⅰ：実施しなかった

みたいな感じで。

(事務局) では、

Ⅳ：計画を上回る成果が認められる。

Ⅲ：計画を達成している。

Ⅱ：計画の一部未達成がある。

Ⅰ：計画を実施していない。または重大な改善事項がある。

としてはどうか。

(※賛同の声あり。)

(委員) 評価書も分かりやすいようなものにしたほうがいい。法人化前後が比較できるようにし、改善できた点、また課題もしっかり記載したほうがいい。

(事務局) 評価基準の見直しに当たり、評価書も見直したいと考えており、お手元の資料に見直し後の評価書のイメージを配布しているのでお目通し願いたい。

(委員) 令和6年度の評価書より分かりやすくなっているので、これでいいのではないか。

(委員) 数値目標の指標の意味について表記を工夫する必要がある。例えば、処理時間を15秒縮めることの意味は何であるとか。これが不十分だと評価の捉え方が異なることも考えられる。

(委員) 処理時間を指標として捉えるの当たり前として、その背景も説明したらどうか。他市と比較してどの程度の件数なのかとか。また、待ち時間の感じ方は、必ずしも時間ではなく、待っている空間の状況次第でも感じ方は異なると思う。

(事務局) 参考にしたい。

(委員) 現状維持や何もなかったことが停滞ではないものの評価について、セキュリティ関係などが該当すると思うが、本来、事故がないのが当たり前で、何も起こらなかったことに対していきなり「Ⅳ」を付けるのは難しいのかなと思う。

(委員) 日々の努力をしっかりとやって事故が起こらなかった場合と、何も取り組まずにたまたま事故が起こらなかった場合とでは、意味合いが違うような気がする。

(事務局) この場合、項目別評価でひとまず「Ⅲ」を付け、日々努力してきたことを特記事項として記載した上で、全体評価においてこの点を賞賛すべき事項として前面に出すというやり方も考えられる。

(委員) それでいいと思う。

(委員長) 評価実施要領については、評価基準を先程事務局から申し出があったとおり修正した上、改正してよいか。

(※全会一致で承認)

(2) その他

(事務局) 次の評価委員会は、次年度の7月中旬から8月上旬の間で開催予定である。